

循環器 CASE REPORT

不整脈診療について



土居 寿志

心臓血管内科 診療部長



不整脈疾患は、脈拍が早くなる頻脈性不整脈と、遅くなる徐脈性不整脈とに大まかに分類されます。不整脈に対する治療には、薬剤を用いる方法以外にも様々な治療方法があり、これらは非薬物療法と呼ばれています。

非薬物療法の代表として、徐脈性不整脈に対するペースメーカー療法があります。頻脈性不整脈に対する非薬物療法には、根治を目指すカテーテルアブレーション治療、致死的不整脈による突然死を予防する植込み型除細動器があります。

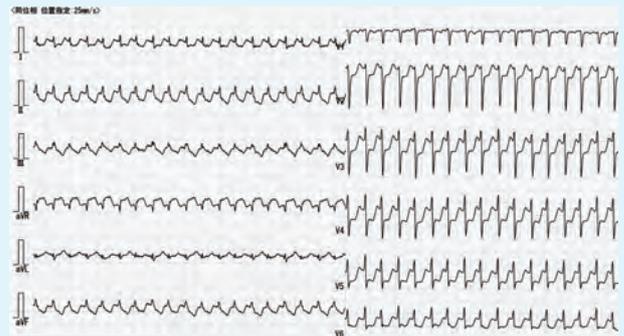
カテーテルアブレーション治療とは、カテーテルから高周波電流を流して心筋に熱を発生させ、選択的に心筋を変性させて不整脈を生じないようにする治療です。

ここで、頻脈性不整脈の一症例について紹介します。

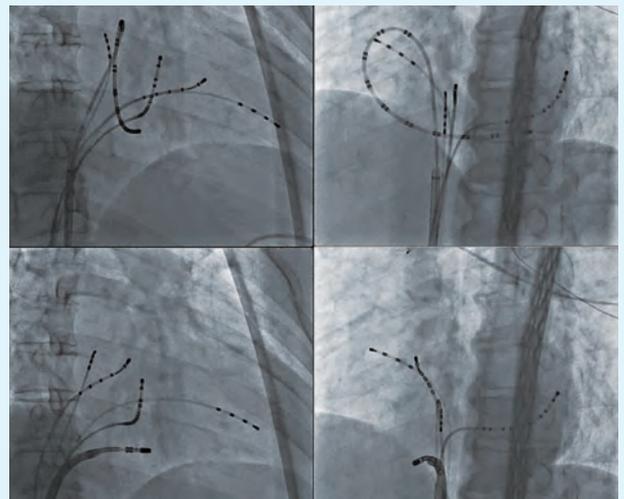
患者さんは50歳台の女性、動悸症状を伴う頻拍発作を繰り返し返していました。心電図では心拍数200/min前後の頻拍を示し、来院時は抗不整脈薬の静脈注射で停止させていました。頻拍発作は発作性上室性頻拍と呼ばれるもので、発作予防的に継続的な薬物療法を行う選択肢もありましたが、今回根治の治療を目的として、カテーテルアブレーション治療を行いました。

その結果、頻拍は右心室から右心房に向かって電気を伝導する副伝導路と呼ばれる組織が存在することによって生じていると判明し、本症例では3次元マッピングシステムを用いて詳細に副伝導路の場所を同定、その場所へのアブレーションで副伝導路の離断に成功しました。以後、頻脈は生じなくなっています。

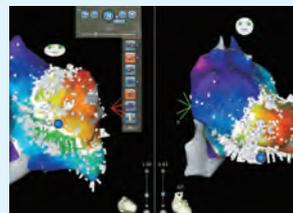
このようにアブレーション治療では、頻脈発作に対する根治が期待出来ます。大多数の頻脈性不整脈疾患にアブレーション治療は可能ですので、治療適応があるかも含め、気になる症状のある方はいつでも当院外来へご紹介・ご相談下さい。



▲図1. 頻拍発作中の心電図 (心拍数226/minの頻拍を示している)



▲図2. カテーテルアブレーション中の透視画像



▲図3. 3次元マッピングシステム。
図中の青点が、右室側の副伝導路存在部位を示している



▲図4. アブレーション治療中の状況

いつでもお気軽にご相談ください。

心臓血管内科 主任診療部長 武野 正義 ☎095-822-3251

